イヌの品種改良

3年Hコース11番 R21068 杉中 空

目次

1.	研究	の動	機・	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
2.	問い	• •		•		•	•	•			•	•	•	•	•	•						•		•							• ;	2
3.	遺信	云に、	つりょ	て		•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		• :	2
3.1	1	小型化	匕が	さ	れて	き	た	歴	史	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	2
3.2),	小型化	との	方	法・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
3.3	ì	近年の	の遺	伝-	子学	の	発	展	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
4.	純』	血種。	とは	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• ;	3
4.1	ŕ	屯血和	重の	特征	敳•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
4.2	:	ミツ:	クス	<u>ځ</u>	維種	ÌΟ	違	ζ)	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
4.3	ŕ	沌血 和	重を	育	てる	目	的	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• ,	4
4.4	ŕ	沌血 和	重の	身位	体が	弱	61	理	由	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
5. ร่	ミとめ	•		•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
6.参	考文	て献		•				•		•					•	•	•		•	•				•	•	•	•	•	•	•	•	5

1. 研究の動機

祖母の家で飼っているトイプードル1匹(6歳)が2回目の骨折したときに、トイ

プードルは人工的に小型化されたものだと聞いたことがあり骨折しやすいのと関係あるのか疑問を持ったため。また、小型化について調べるにつれて、小型化がされているということは純血種であることも示しているため、純血種についても調べることにした。

2. 問い

イヌの小型化や、純血種を人工的に作り出す方法による遺伝によってイヌの個体 の特徴にどのような違いが出るのかを調べた。

3.遺伝について

3.1 小型化がされてきた歴史

もともと小型犬は少なく大型犬が多くを占めていたが 16 世紀ごろのヨーロッパ で小型化された犬に人気が出て一気に増加した。

3.2 小型化の方法

その犬種のなかでも特に小さい個体同士を交配させて徐々に小型化してきた。この方法は今でも使用されている。

3.3 近年の遺伝子学の発展

近年は遺伝子学の発展によってゲノム情報が解読されたため、ゲノム配列を自由 に操作することができるようになってきている。

犬でのゲノム配列による体格や毛の長さなどの遺伝情報を操作することはまだ 実用化されていないが、マウスでの実験には成功している。

4.純血種とは

4.1 純血種の特徴

同じ犬種の親から生まれた犬を純血種と呼ぶ。性格や身体の大きさ、顔つき、被毛の長さなど、両親の特徴をもとに成長後の姿をある程度予想できることが、純血種の最大の特徴。

4.2 ミックスと雑種の違い

近年人気の高まっているミックスとは、異なる犬種を人工的に交配させて生まれた犬のことを指す。両親が純血種かミックスであることが雑種との大きな違い。親の品種がどちらか一方でも不明な場合、その犬は雑種とされる。さまざまな血統が混ざっているため、見た目のバリエーションが豊富で、性格にも個性が表れる。

4.3 純血種を育てる目的

純血種を育てる一番の目的は種の保存である。純血種を繁殖・飼育しているブリーダーは、大きさや毛色といった見た目のほか、気質や性格、健康面なども重視して交配し、飼育をしている。

しかし、無理な繁殖をしようとすると、体格の小型化や抵抗力の低下といった健康面に問題のある子犬が生まれてしまうことがある。祖先から続く、その犬種ならではの美しさ、強さ、魅力を備えた優良な血統をつなげていくために、ブリーダーは血統管理を徹底し、心身ともに健全な純血種の犬を育てている。

4.4 純血種の身体が弱い理由

純血種がそっくりの姿かたちをしているのは、同じような遺伝子を持つ犬同士を 交配しているからで、姿かたちと同様に体質や性格も似ている。そのため、同じよ うな病気になったり、同じ問題行動を起こしたりする。そして、遺伝性疾患を持つ 犬の繁殖は避け、注意を払って交配したとしても、この問題を完全に解決すること は難しい。

5.まとめ

イヌの小型化は同じ犬種のなかでも特に小さい個体同士を交配させて徐々に小型化してきたことがわかった。

また、近年は遺伝子学の発展によってゲノム情報が解読されたため、ゲノム配列を自由に操作することができるようになってきているため、犬でのゲノム配列による体格や毛の長さなどの遺伝情報を操作することが近い将来できることが分かった。

純血種の繁殖の際に大きさや毛色といった見た目のほか、気質や性格、健康面、 遺伝性疾患なども重視して交配し、飼育をすることが重要であることが分かった。 また、無理な繁殖をしようとすると、体格の小型化や抵抗力の低下といった健康面 に問題のある子犬が生まれてしまうことがあることが分かった。

イヌの小型化には人間の欲望、趣味趣向がかかわっており、人工的に遺伝を操作されて生まれた個体にはかわいい等のメリットはあるがそれ以上に同じような病気になったり同じ問題行動を起こしたりするなどデメリットもそれ相応にあることが分かった。

6.参考文献

● 吉田 隆『生物の科学 遺伝 遺伝情報から見たイヌの世界-進化・獣医学・社 会との関わりまで』

2022年9月1日発行

● 白揚社『純血種という病―商品化される犬とペット産業の暗い歴史』

2019年3月7日発行

● セゾンのくらし大研究「犬・猫の純血種とは? 雑種・ミックスとの違いや、育 てる目的、魅力について解説」

https://life.saisoncard.co.jp/life/pet/post/simnet002/

最終閲覧日 2024/1/20

● 村田香織「犬を飼う前に知ってほしいこと 「純血種が優れている」は誤解」 https://sippo.asahi.com/article/10560237

最終閲覧日 2024/1/20